



新しい地域コミュニティ 構築推進事業

オンライン概要説明会

生駒市 地域コミュニティ推進課



1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

6

事務連絡

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

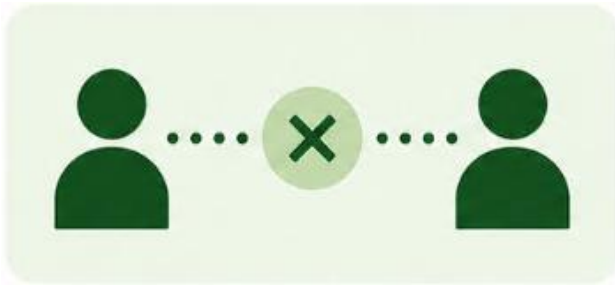
6

事務連絡

本事業で向き合う課題

1

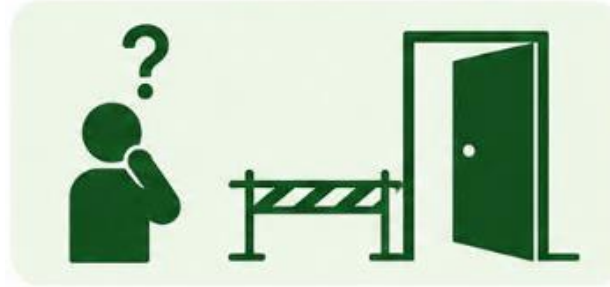
地域活動や市民活動との
接点が少ない市民



- ・既存の地域活動や市民活動につながない市民が多い
- ・地域活動への参加や自治会加入も低下傾向にある

2

既存の取組には自然に
接続しにくい層がいる



- ・義務や役割、継続的な参加を前提とすると、関わりにくい市民がいる
- ・関心はあっても、参加の仕方が分からない層もいる

3

顔の見える関係は地域の
安全・安心を支える基盤



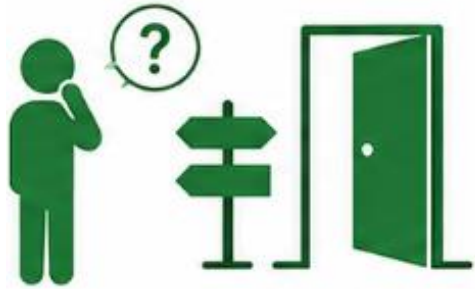
- ・防災・防犯・見守りなどを支えるため、顔の見える関係を維持する必要がある

市民の参加意向と参加ハードル

地域に関心を持つ市民は一定数存在している。一方で、従来型の地域活動には参加のハードルがあり、無理なく関われる入口と、最初の一步を支える仕組みが求められている。

1

何かしたいが、
参加のきっかけがない



令和7年度ワークショップ等での主な意見

- ・地域に何かしたい気持ちがあるが、きっかけや参加方法が分かりにくい。
- ・繋がりたいと思っけていても、義務や負担のある活動には参加ハードルがある

2

テーマによっては、
参加意向・関心がある



防災訓練への関心度 **65.5%**
趣味活動への関心度 **63.5%**

「参加してみたい」「関心がある」を合わせた関心度

3

支えがあれば、実施
できそうと考える層がいる

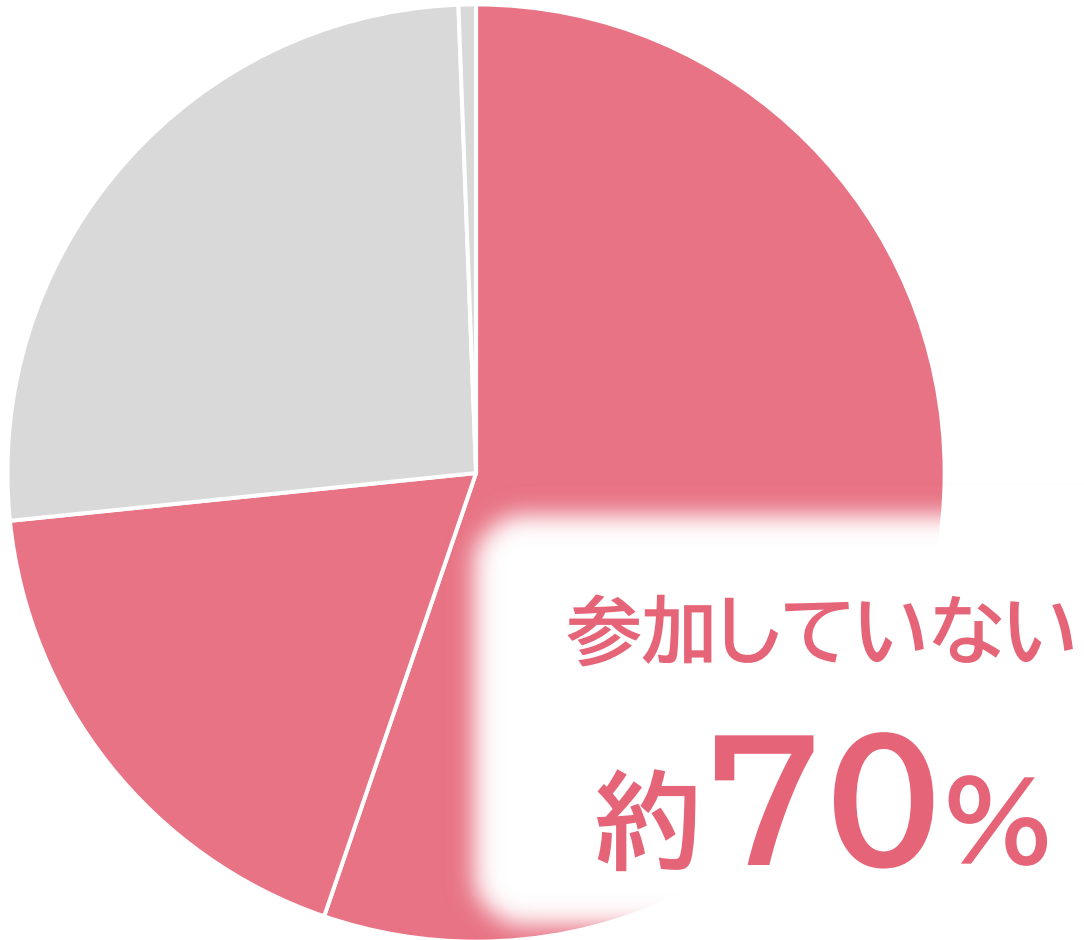


「誰かのサポートがあればできそう」 **33.8%**

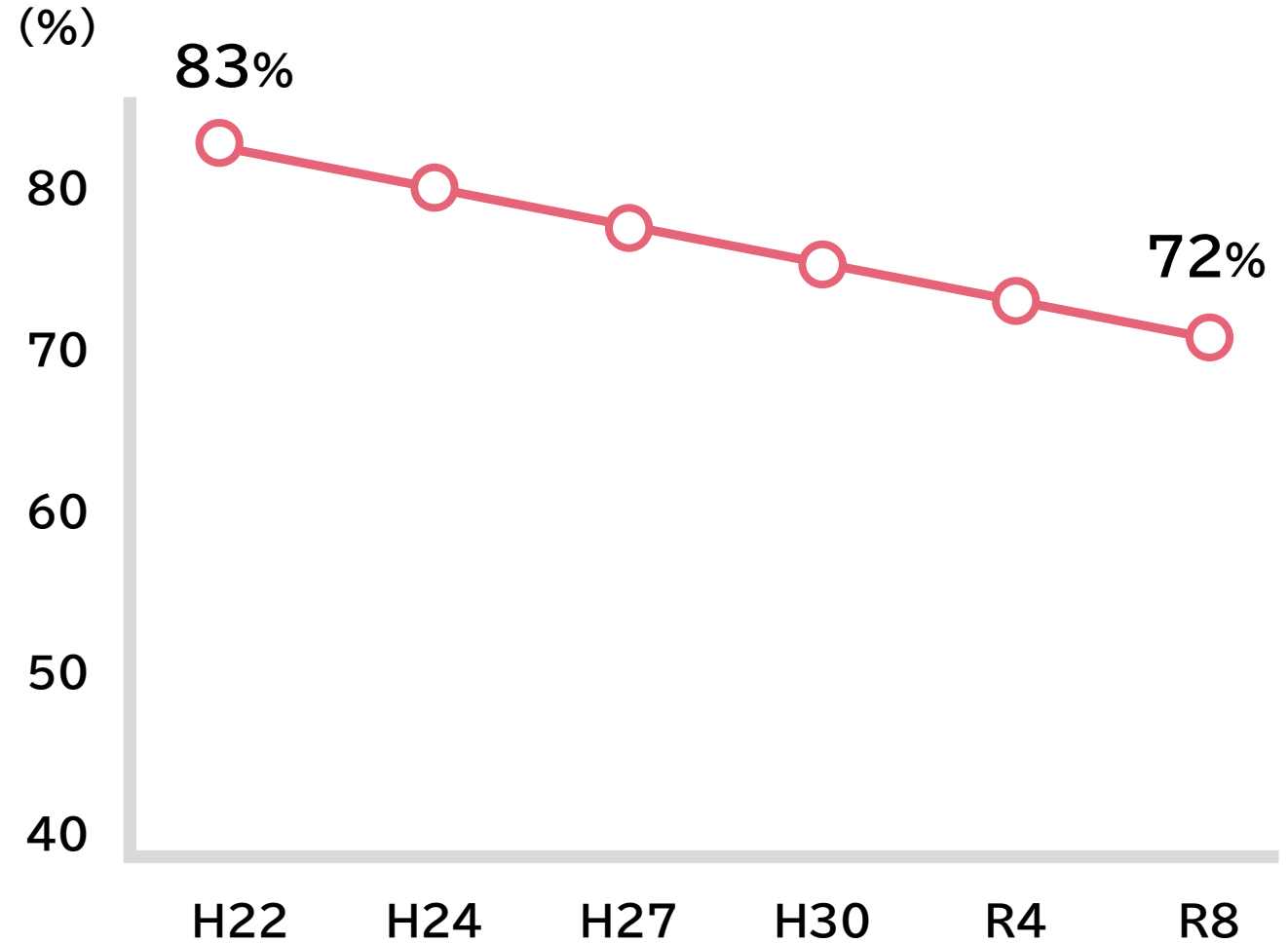
参加意向がある人の中にも、支えや伴走支援があれば実施できると考える層が存在している。

地域活動への参加率

現在、地域活動に参加していない層

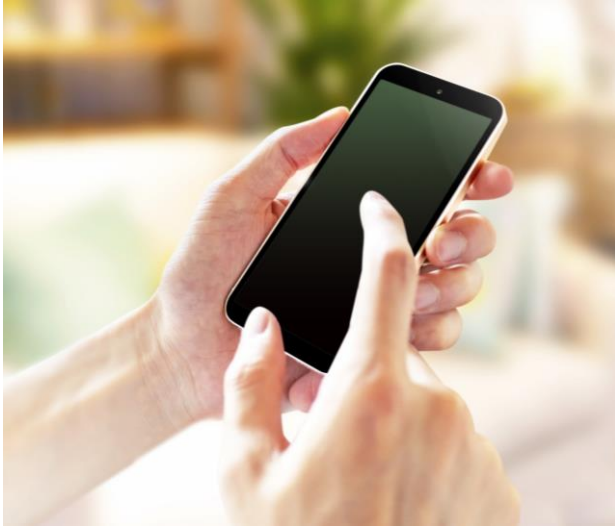


自治会加入率の推移



ライフスタイルの多様化

多様な暮らし方により、従来型の地域参加が生活導線に乗りにくくなっている



デジタル化の進展

スマートフォンの普及により、情報発信やコミュニケーションの方法が多様化



共働き世帯の増加

時間的なゆとりが少なく、地域活動への参加が困難



核家族化

マンション・集合住宅の増加や
単身・核家族化の進行



価値観・余暇の多様化

個人の価値観や余暇の過ごし方が多様になり、地域活動の優先度が下がる傾向も

「繋がり」の脆弱化による影響

顔の見える関係がなくなると、地域の安全・安心や支え合いの機能が低下します

見守り



高齢者やこどもの見守り
(地域での孤立)

防災



災害時における声かけや
助け合い

防犯



美化活動など生活環境、
防犯面の悪化

公助への依存



共助の低下による公助
(行政負担)の増大

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

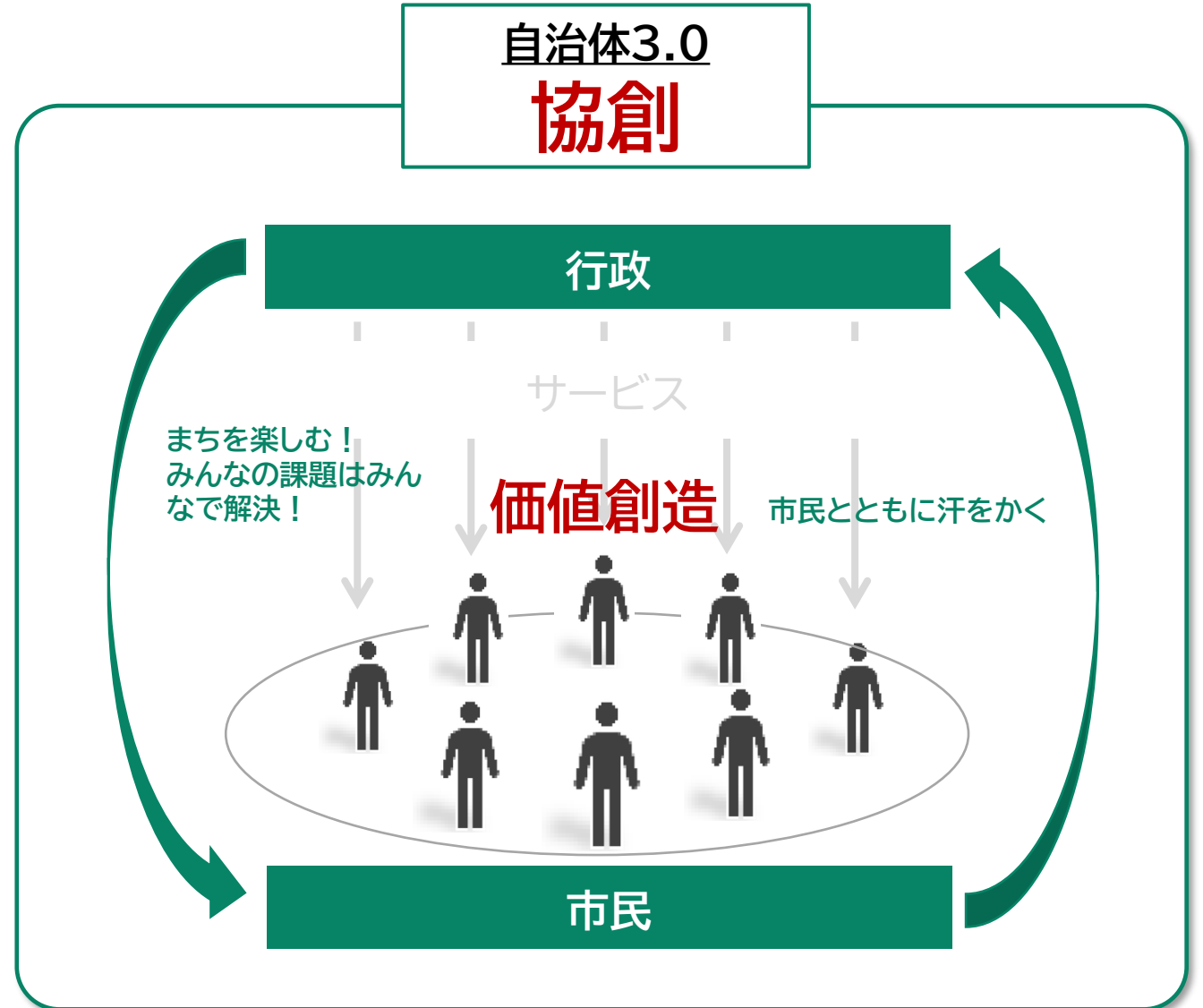
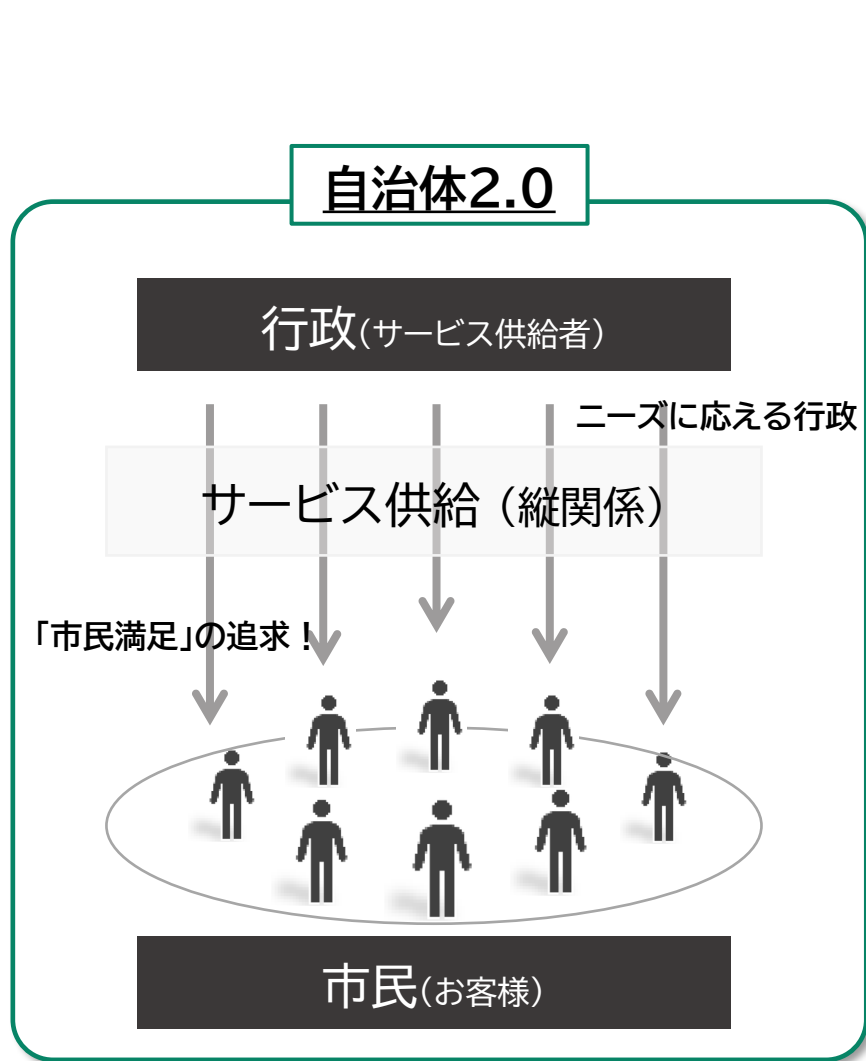
5

質疑内容

6

事務連絡

市民自身が楽しいと思える場を行政がプロデュースする



生駒市のこれまでの取組(全体像)

生駒市はこれまで、地縁組織への支援と、テーマ型コミュニティへの支援の両面から、地域の繋がりづくりを進めてきた

取組①

「地縁組織」起点の取組



自治会支援



複合型コミュニティ
(まちのえき)



市民自治協議会



取組②

「テーマ型コミュニティ」 起点の取組



NPO・ボランティア活動支援



まちのわ補助金



イコマニア・イベント



自主学习グループ



既存の「地縁組織」起点でのコミュニティの活性化

地域に根差した取組を進めてきたが、担い手や参加の広がりには課題がある

取組例 複合型コミュニティ「まちのえき」

地域の人が歩いて集える自治会の集会所や公園などの地域拠点を活用し、住民が主体となって様々な取組・サービスを複合的に展開する地域の交流拠点



見えてきた課題

自治会の担い手不足・高齢化

若い世代が自治活動に参加しにくい

やらされ仕事のイメージから
自治会への忌避感を持つ人が増加

新たな参加者への広がりには課題

地域に根差した拠点としての強みを持つ一方、担い手や新たな参加者の広がりには課題がある。

「テーマ型コミュニティ」起点でのコミュニティの活性化

関心やテーマを入口とした活動を支援してきたが、身近な地域への接続に課題がある

取組例

各種市民活動サークル/団体

個人の興味・関心・問題意識によりつながった市民同士で、モチベーション高く主体的に取り組む地域活動を支援



環境・まちづくり

学び・文化

趣味・スポーツ

福祉・子育て

見えてきた課題

関心の高い市民を中心とした活動になりやすい

SNS等による市内全域での繋がりのため、地区単位での活動に落ちにくい

地縁組織の活動に直結しにくい

身近な地域の支え合いに接続しにくい

テーマ型コミュニティ起点の取組は、地区単位の繋がりに結び付きにくい
既にあるコミュニティに新規参加者が参加しづらい環境もある

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

6

事務連絡

生駒市のこれまでの取組も活かし、 地域との接点が薄い市民にも届く新たな参加導線をつくる

既存の取組への支援は継続しつつ、これまで地域コミュニティにつながっていない層が、無理なく関わることができる仕組みを新たに構築する

既存の取組

地縁組織を起点とした取組

自治会支援

複合型コミュニティ
(まちなえき)

市民自治協議会

テーマ型コミュニティを 起点とした取組

NPO・ボランティア活動

まちなわ補助金

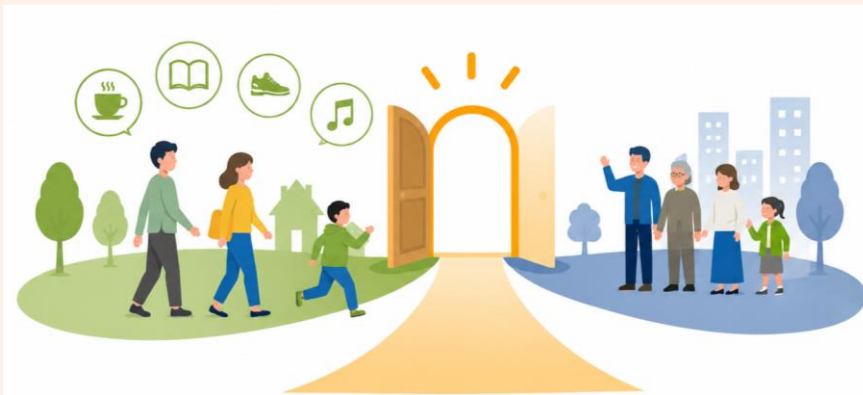
イコマニア・イベント

自主学習グループ

活用

本事業で新たに構築したいコミュニティ

関心やテーマを入口
に、地域との接点が薄い市民が
身近に地域とつながる仕組み



お互いの暮らしを楽しみながら支えあう。
ときには自分の興味関心、特技を生かす。
自由でゆるやかなご近所づきあい。

接続

既存の取組



地域活動に
参加していない



自治会・市民活動に
接点がない



義務や役割を前提に
すると参加しにくい



関心はあるが、参加の
仕方が分からない



本事業の主なターゲット



本事業の本質

既存の取組を活かしながら、地域との接点が薄い市民にも届く**新たな参加導線**をつくる

本事業で目指すこと・目指さないこと

本事業は、単なる情報発信・イベント・ワークショップ等の実施、中間支援組織新設ではなく、地域との接点が薄い市民が、無理なく地域とつながり、その関係が続く条件を実証することです。

本事業で目指すこと

本事業で目指さないこと



地域との接点が薄い市民に届く入口づくり



既存団体への加入数を増やすこと



関心・テーマ・日常をきっかけにした参加機会



単発イベントを多数実施すること



参加後もつながりが続く仕組みを試行する



一度参加して終わる場をつくること



中間支援機能の役割・担い手等を具体化する



中間支援組織の新設を前提にすること



2年間の実証を3年目以降に活かせる実践知として整理する



報告書作成だけで終わること

3つの軸を一体的に設計する

軸A デジタル技術を活用した「見える化」



- ・活動・人材・参加機会の可視化
- ・情報発信と参加導線の整備
- ・オンラインとオフラインの接続

軸B 新たな場の創出



- ・関心やテーマを入口に、無理なく参加できる場
- ・心理的安全性のあるワークショップ等
- ・行っても行かなくてもいい、緩い繋がり

軸C 中間支援機能 設計・構築



- ・繋がりを継続するための支援機能の整理
- ・担い手候補や継続的に関与する主体の発掘
- ・事業終了後の運営につながる仕組みの検討

見える化、場づくり、中間支援機能を連動させ、地域との接点が薄い市民にも届く参加導線をつくる。

軸A

デジタル技術を活用した「見える化」



見える化するもの



地域で行われている活動



参加・問合せ
につながる導線



活動している人・団体



市民の関心やテーマ

提案で重視する視点



掲載するだけでなく次の行動につながる仕組みがあること。



地域別・テーマ別に探しやすい、自分に関係する活動を見つけやすいこと



事業終了後も運用できる現実的な仕組みであること



デジタルは目的ではなく、**地域とつながる入口を広げる手段**

軸B

新たな場の創出支援

場のイメージ

- 関心やテーマを入口にした参加機会
- 地域との接点が薄い市民も参加しやすい場
- 自治会・小学校区・地区など身近な地域での繋がりづくり
- 参加後も繋がりが継続する仕組み



提案で重視する視点

- 多様な市民が無理なく参加しやすい、具体的かつ実現可能なプログラムであること
- 参加の場が一過性の取組にとどまらず、参加者同士の繋がりが継続する仕組みであること
- 継続を支える工夫やフォローの方法が具体的に示されていること



場をつくるだけでなく、参加者同士の繋がりが継続する仕組みの設計

軸C

中間支援機能の設計・構築

2年間で整理・具体化すること



中間支援機能が担う役割



必要となる業務内容



担い手像・担い手候補



運営手法等



事業終了後の運営につながる仕組み

構築・検討のプロセス

1

整理する



軸A・軸Bの取組を通じて役割・業務内容を整理する

2

試行する



必要に応じて伴走支援や調整機能を試行する

3

育てる



担い手候補を発掘し育成・関与の機会を設ける

4

具体化する



本事業終了後の運営につながるよう、中間支援機能の在り方を具体化する

提案で重視する視点

- 中間支援機能の役割を、2年間でどのように整理・具体化するか
- 軸A・軸Bの取組を支える機能として、必要な支援方法が具体的に示されているか
- 参加者同士の繋がりが継続するよう、フォローや関与の方法が具体的に示されているか。
- 中間支援機能の一部を担う人材の発掘・育成・関与の機会が具体的に示されているか。



中間支援組織をつくることではなく、繋がりを支える機能のあり方を2年間で具体化する。

事業者を求める提案の視点

地域との関わりが薄い市民に届くこと



地域活動や市民活動に参加していない層、自治会や既存団体との接点が少ない層にどのように情報を届け、参加のきっかけを作るかが具体的であること。

無理なく参加できる入口



義務や役割を前提とせず、関心やテーマ、日常生活を入口として、多様な市民が参加しやすい設計であること。

参加につながる導線



見える化にとどまらず、参加申込・問合せ・地域活動への参加など、次の行動につながる仕組みがあること。

一過性で終わらないこと



参加の場やワークショップ等が単発で終わらず、参加者同士の繋がりが継続する仕組みやフォロー方法が具体的に示されていること。

中間支援機能の具体化



オンライン・オフライン双方の取組を通じて、中間支援機能の役割、業務内容、担い手像、運営手法等を整理し、必要に応じて試行すること。

事業終了後も継続できること



委託期間中の取組で終わらず、地域で継続的に関与する主体や担い手候補を見つけ、事業終了後の運営につながる関係性や仕組みが具体的に示されていること。

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

6

事務連絡

本事業のゴールとKPI

① 実践する

200グループの形成

2年間で、概ね2名以上の複数人によるグループを200程度形成することを目指す。

デジタルシステムの試行

地域活動を見える化し、情報発信、申込、問い合わせ等が実際の参加につながるかを試行する。

② 確かめる

どのような取組が有効かを検証



地域との接点が薄い市民に届く入口



関心や日常をきっかけにした場づくり



顔の見える関係が生まれる条件



繋がりが継続するために必要な支援

中間支援の手引き



2年間の実証で得られた知見を、3年目以降の生駒市の取組に活かせる形で整理する。

- ・ 参加しやすい入口のつくり方
- ・ 繋がりが続く場づくりの方法
- ・ 継続を支える中間支援機能の在り方

200グループの形成を通じて、地域との接点が薄い市民が無理なくつながる方法を実証し、3年目以降に活かせる実践知として残す。

生駒市が目指す地域コミュニティの将来像

自治会活動やテーマ型活動への支援を継続しながら、誰もが日常の中で身近な地域とつながることができる多層なコミュニティを目指す。

防災訓練

いざという時の備えが、日ごろの顔の見える関係にもつながる

自主学习グループ

学びをきっかけに、関心の近い人同士がつながる場

自治会館・集会所

地域の活動やイベントの拠点となり、地縁の繋がりを支える場

趣味の集まり

好きなことをきっかけに、気軽な交流が生まれる場

駅前・商店街

買い物や用事のついでに、自然と会話やあいさつが生まれる

公園・広場

子どもも大人も、思い思いに過ごしながら、ゆるやかにつながれる場

空き家・空き店舗の活用

地域の資源を活かし、出会いやチャレンジが生まれる場

地縁・テーマ型・ゆるい繋がりが重なり合い、誰もが身近な地域と関われるまちへ。

生駒市が目指す地域コミュニティの将来像

自治会活動やテーマ型活動への支援を継続しながら、誰もが日常の中で身近な地域とつながることができる多層なコミュニティを目指す。

テーマ型の繋がり

自主学习グループ

学びをきっかけに、関心の
近い仲間が繋がる場

防災訓練

いざという時の備えが、日
ごろの顔の見える関係にも
つながる

地縁の繋がり

自治会館
地域の活動やイベントの拠
点となり、地縁の繋がりを
支える場

趣味の集まり

好きなことをきっかけに、
気軽な交流が生まれる場

駅前・商店街

買い物や用事のついでに
自然と会話やあいさつが生
まれる

ゆるい繋がり

公園・広場

こどもも大人も、思い思い
に過ごしながら、ゆるやか
につながれる場

空き家・空き店舗の活用

地域の資源を活かし、出会
いやチャレンジが生まれる
場

地縁・テーマ型・ゆるい繋がりが重なり合い、誰もが身近な地域と関われるまちへ。

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

6

事務連絡

質疑応答



ご質問をお受けします。

本事業の趣旨、仕様書の考え方、提案作成上の確認事項等についてご質問ください。

※公平性確保のため、個別の具体的な提案内容や評価に関わる事項についてはお答えしかねます。

1

背景・課題

2

生駒市のこれまでの取組と課題

3

事業内容の全体像

4

本事業のゴールとKPI

5

質疑内容

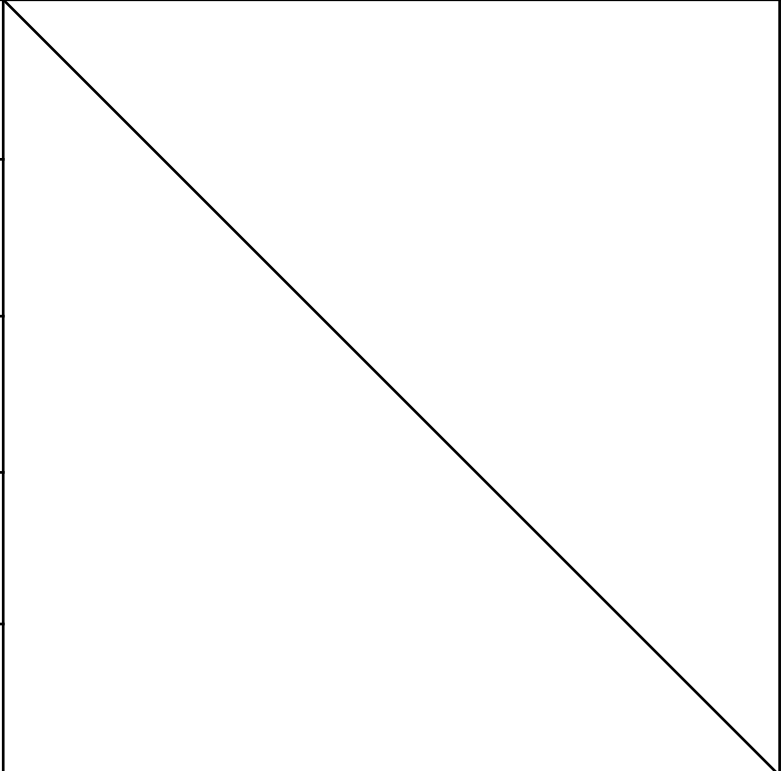
6

事務連絡

今後のスケジュール

	項目	日程	補足
1	オンライン概要説明会	5月12日(火)	オンライン
2	質問受付締切	5月20日(水)16時まで	
3	個別対話申込書・個別対話質問書受付締切	5月22日(金)12時まで	希望者のみ
4	質問回答	5月25日(月)17時まで	市HPにて
5	個別対話の実施	5月26日(火)～28日(木)	オンラインor対面
6	追加周知事項の公表	5月29日(金)17時まで	市HPにて
7	企画提案書受付締切	6月5日(金)16時まで	メールにて
8	第1次審査(書類審査)	6月9日(火)予定	
9	第1次審査結果通知	6月10日(水)予定	メールにて
10	第2次審査(ヒアリング等による最終審査)	6月18日(木)予定	
11	審査結果通知	6月下旬予定	
12	契約締結	6月下旬予定	

評価基準・配点 計195点

審査項目	評価基準	評価点
会社の業務実績	・仕様書第7項(1)～(3)までに掲げる業務のいずれかに類する取組実績	10点
価格	・予定価格(上限8,000万円)に対する見積書の比率に応じて加点	15点
運用費用	・本業務により構築又は導入したデジタルシステムについて、事業終了後に本市が継続利用する場合のランニングコストについて、提案者の平均運用費用をもとめ、それに対する比率に応じて加点	15点
全体の構想・設計力	<p>●事業全体の理解度 本事業の目的である、地域活動やコミュニティとの接点が希薄な市民が、地域と新たにつながるきっかけを得て、無理なく参加しやすく、継続的につながる仕組みについて、本質的に理解した上で具体的に示されているか。</p>	
	<p>●行動変容 市民が地域に関心を持つきっかけの設定、参加に至る導線、参加後の活動への移行及び継続的な関係性の形成に至るまでの一連のプロセスが具体的かつ実現可能な形で示されているか。</p>	
	<p>●各業務の連動性 各業務(デジタルシステム・新たな場の創出・中間支援機能の設計・構築)が相互に接続され、個別の取組にとどまらず一体的な仕組みとして機能することが示されているか。</p>	
	<p>●将来的な自立・自走 事業終了後も継続的な運営が見込まれ、担い手の存在や関係性の維持・発展につながる仕組みが、具体的かつ実現可能な形で示されているか。</p>	
	<p>●明瞭性・理解・意欲 企画提案書がわかりやすく説得力があり、説明や質問に対する回答が明確でわかりやすいか。また、業務に対する十分な理解度、熱意及び意欲を有しているか。</p>	

審査項目	評価基準	評価点
デジタル技術を活用した「見える化」	市民が地域活動を直感的に理解し、必要な情報を容易に検索できるよう、視認性及び操作性に優れた設計・デザインとなっているか。	135点
	情報を発信できる機能を備え、その情報を閲覧した市民が、申込み、問い合わせ、参加機会への接続等の参加行動へ円滑に移行できる導線が具体的に構築されているか。	
新たな場の創出支援	関心やテーマを入口として、地域活動やコミュニティとの接点が希薄な市民を含む多様な市民が無理なく参加しやすい、具体的かつ実現可能なプログラムとなっているか。	
	参加の場が一過性の取組にとどまらず、参加者同士のつながりが継続する仕組みとなっているか。また、その継続を支える工夫やフォローの方法が具体的に示されているか。	
中間支援機能の設計・構築	中間支援機能が担う役割(つなぎ、伴走支援等)が明確に定義されており、事業期間内においてどのように段階的に構築・拡充していくかのプロセスが具体的に示されているか。	
	事業終了後においても当該機能が継続的に運営されるための体制、担い手の確保・育成、収益確保又は財源確保の方法等が具体的かつ実現可能なものとして示されているか。	
運用管理業務	十分な人員配置、管理体制、スケジュール管理が取られており、業務全体を通して円滑に遂行されることが見込めるか。また、円滑に業務を遂行することが困難になった場合、人員配置等を見直すなどし、臨機応変且つ迅速な対応が見込めるか。	10点
独自の提案	提案内容はこれまでにない独創的なものとなっているか、また事業者ならではの強みやセールスポイントを発揮する内容となっているか。	10点